

環境シンポジウム 2024

バリューチェーン全体での脱炭素化推進モデル事業成果報告会

趣旨

私たち一般社団法人プレハブ建築協会 | 住宅部会は、2021年10月、2050年カーボンニュートラルの実現を含む、新たな環境ビジョンを策定、住宅における ZEH や ZEH-M の推進、工場における再エネの導入など、商品・モノづくりの両面から脱炭素の取り組みを加速しています。

一方、住宅のライフサイクル全体の CO₂ 排出量の約 2 割を占める資材製造段階においては、概要把握にとどまり、今後は、サプライヤー企業と協働し、CO₂ 排出量の少ない建材の開発・普及に向けた取り組みが不可欠といえます。そうした問題意識のなか、当部会では、今年度、環境省が実施する「バリューチェーン全体での脱炭素化推進モデル事業」に参画し、はじめの一歩として、会員各社が算定・公表しているスコープ 3 排出量に、サプライヤー企業の削減努力が反映できる手法を検討してきました。

本シンポジウムでは、特別講演を通じて、LCCO₂ に着目した住宅・建物の新しい評価のあり方と最新の動向を学ぶとともに、モデル事業の成果や会員各社の先導事例を共有し、脱炭素社会と共生する新たな工業化住宅の魅力を再考します。

日時 2025年3月10日 月曜日 13:00~16:00 (受付12:30)

会場 TKP ガーデンシティ御茶ノ水 (東京都千代田区神田駿河台 3-11-1) ※新御茶ノ水駅直結
https://www.kashikaigishitsu.net/facilitys/gc-ochanomizu/access/?ctid=ad_gsa_kk_0201

開催形式 会場セミナー (約 120 名) ※後日、協会 HP にて期間限定のアーカイブ配信を予定

特別講演

アップフロントカーボンの削減に向けて、住宅業界に期待すること



伊香賀 俊治 慶應義塾大学名誉教授 / (一財)住宅・建築 SDGs 推進センター理事長

1959年東京生まれ。早稲田大学理工学部建築学科卒業、同大学院修了。(株)日建設計、東京大学助教授、慶應義塾大学理工学部教授を経て2024年より慶應義塾大学名誉教授。一般財団法人住宅・建築 SDGs 推進センター理事長。専門分野は建築・都市環境工学。博士(工学)。日本学術会議連携会員、日本建築学会副会長、日本 LCA 学会副会長、日本応用老年学会理事を歴任。内閣官房、国土交通省、文部科学省、経済産業省、環境省、厚生労働省などの建築・都市関連政策に関する委員を務める。

【講演要旨】

有価証券報告書に Scope3 温室効果ガス排出量などのサステナビリティ情報の 2027 年 3 月期以降の段階的な記載義務化の検討が金融庁において審議されている。大手ハウスメーカーから段階的に開示義務化を迫られる国内外の最新動向を概括し、戸建住宅にも参考になる建築物ホールライフカーボン評価ツール (J-CAT) の最新情報を紹介する。

スケジュール

13:00~13:05	開会あいさつ	住宅部会長代行 積水化学工業 (株) 丸山 聡
13:05~13:20	環境分科会からの報告 (住生活向上推進プラン (環境指標) 2023 年度実績ほか)	
13:20~14:20	特別講演「アップフロントカーボンの削減に向けて、住宅業界に期待すること」 慶應義塾大学名誉教授 / (一財)住宅・建築 SDGs 推進センター理事長 伊香賀 俊治 氏	
14:20~14:35	(休憩)	
14:35~14:40	環境省様ご挨拶	環境省 地球環境局 地球温暖化対策課 脱炭素ビジネス推進室
14:40~15:15	環境省モデル事業成果報告 : スコープ 3 (カテゴリ 1) 算定ガイドライン (試行版)	住宅部会 環境分科会 代表幹事 小山 勝弘
15:15~15:35	事例① : カーボンニュートラルに向けた サプライヤーエンゲージメントの取り組み	大和ハウス工業 (株) サステナビリティ統括部 上席主任 祖父江 伊吹 氏
15:35~15:55	事例② : LIXIL における 建材の脱炭素化に向けた取り組み	(株) LIXIL 環境推進統括部 部長 峯 弘 氏
15:55~16:00	閉会あいさつ	プレハブ建築協会 専務理事 臼井 浩一

主催 : 一般社団法人 プレハブ建築協会 住宅部会 環境分科会